

平成15年度北海道入札監視委員会（第2回臨時会）審議概要

開催日及び場所 平成16年2月9日（月） 道庁赤れんが庁舎 2階1号会議室

委員

伊藤 隆道（弁護士）
笠原 篤（北海道工業大学教授）
梶井 祥子（北海道武蔵女子短期大学助教授）
高井 哲彦（北海道大学大学院助教授）
花岡 英司（公認会計士、税理士）

議事等

ランダム・カット式指名選考のあり方についての審議

前回の委員会（平成15年12月19日開催）の議論を踏まえ、ランダム・カットを廃止する場合の付帯条件について次のような意見が出された。
（主な意見等）

- ・ランダム・カットは、そもそも指名競争入札における発注者側の恣意性を排除するために導入された制度であるから、指名競争入札を減らし、一般競争入札や公募型指名競争入札などの多様な入札を拡大すべきである。
- ・多様な入札は、現行の3割から5割程度まで拡大すべきである。
- ・電子入札の導入に併せて、通常の名指競争入札を全廃してはどうか。
- ・通常の名指競争入札で行うものを厳選し、対象範囲を明確化すべきである。
- ・指名選考過程や各発注機関の指名選考方針をホームページなどで積極的に公表すべきである。
- ・さらなる競争性の確保のため、指名業者数をカット前の指名候補者数まで等に拡大してはどうか。
- ・数にこだわるあまり、無理な絞り込みが見受けられる。現行の指名業者数を最低限の目安とし、柔軟に対応すべきである。
- ・指名選考の客観性を高めるため、入札契約総合管理システムのさらなる活用や、選考基準のあり方の検討を行うべきである。
- ・業者間の談合を防止する取組みを強化すべきである。

次回の開催について

- ・次回、3月の定例会において最終的な詰めを行い、知事に意見具申する。